

所 報

2014. 1～12

2014年1月から12月までの社会科学研究所の活動は以下のとおりである。

1. 機関及び人事

1. 定例所員総会

所員の総意のもとに、各所員の積極的な参加を活力にして、本研究所を民主的に運営し、社会科学の総合的研究を推進していくために努力してきた。今後も、所員の意見・希望等に積極的に応えていきたい。

- (1) 第103回定例所員総会 2014年6月7日(土) 16:10～ 生田校舎1号館2階第6会議室

議事：(1) 所長挨拶、(2) 所員の委嘱・解嘱、(3) 2013年度事業報告、(4) 同会計報告、(5) 2014年度事業計画案(2014年度夏季実態調査・三陸津波被災地調査案)、グループ研究Aの年度内に研究報告を定例研究会枠にて実施のこと、また、3年継続枠のグループ研究A、特別研究助成については、前年度成果報告書の提出の際に、翌年度計画書を添付すること(現況は翌年度に入ってから作成・提出)が提案され、了承された。新年度4月1日から、実質的に予算消化を始めるので、前年度のうちに新年度分の研究計画書を提出しておくという趣旨)。(6) 同予算案、(7) その他、すべての議案は承認された。

- (2) 第104回定例所員総会 2014年12月13日(土) 14:30～ 神田校舎1号館7階7A会議室

議事：(1) 所長選挙：村上所長再選、2014年度事業報告、(2) 同会計報告、(3) 2015年度事業計画案、(4) 2014年度春季実態調査・ベトナム中南部案、(5) 2015年度予算案。特に、消費税アップ分(70万円弱)が社研運営・研究活動に支障をきたしている点を学長宛「願い」を作成・提出して訴えていることの報告。(6) その他、すべての議案は承認された。

2. 所員の異動

- (1) 所員の委嘱・解嘱

委嘱：小森田龍生(文学研究科助手)、上原正博(法)、内川秀二(経)、山本充(文)、恒木健太郎(経)、植村八潮(文)、栢田大知彦(経)、阿部史郎(経)、宮地忠彦(法)、菅原光(法)、松田智穂子(経)(以上、新所員)。

解嘱：松沢裕作、酒井進、常行敏夫、(以上、依願退職)、坂本武憲、手島宣之、晴山一穂(以上、辞退)、伊東洋三、大西勝明、小島直、藤本一美、米田巖、溝田誠吾(以上、定年退職、参与へ)、奥村輝夫(定年退職、参与辞退)、阿部史郎(2014.12.19ご逝去)。

- (2) 研究参与の委嘱・解嘱

委嘱：伊東洋三、大西勝明、小島直、藤本一美、米田巖、溝田誠吾(以上、定年退職、参与へ)、酒井進、常行敏夫(以上、依願退職、参与へ)。

解嘱：加藤幸三郎(2013.12.9 ご逝去)、森下健三(2014.3.27 ご逝去)、吉沢芳樹(2014.7.18 ご逝去)、北川隆吉(2014.4.7 ご逝去)、皆川勇一(2008.10.23 ご逝去)。

(3) 客員研究員の委嘱・解嘱

委嘱：松沢裕作(慶応義塾大学経済学部准教授)、小泉亜紀(相模女子大学短期大学部非常勤講師)、劉文兵(経済学部非常勤講師)。

解嘱：浜田甫(2014.11.22 ご逝去)。

(4) 特別研究員の委嘱・解嘱

委嘱：－

解嘱：小森田龍生(院生)。

3. 運営委員、会計監査、事務局員の委嘱

(1) 2013年度体制

	運営委員	事務局員 (○はチーフ)
所長	村上 俊介 (経)	事務局長 大矢根 淳 (人)
事務局長	大矢根 淳 (人)	会計 ○鈴木奈穂美 (経)
前事務局長	宮寄 晃臣 (経)	樋口 博美 (人)
運営委員	原田 博夫 (経)	研究会 ○佐藤康一郎 (営)
	木幡 文徳 (法)	兵頭 淳史 (経)
	池本 正純 (営)	宮寄 晃臣 (経)
	川村 晃正 (商)	飯沼 健子 (経)
	嶋根 克己 (人)	小池 隆生 (経)
		編集 ○福島 義和 (文)
		内藤 光博 (法)
会計監査	永江 雅和 (経)	前田 和實 (商)
		新田 滋 (経)
		文献資料 ○野部 公一 (経)
		ホームページ ○高萩栄一郎 (商)
		吉田 雅明 (経)

(2) 2014年度体制

	運営委員	事務局員 (○はチーフ)
所長	村上 俊介 (経)	事務局長 大矢根 淳 (人)
事務局長	大矢根 淳 (人)	会計 ○鈴木奈穂美 (経)
前事務局長	宮寄 晃臣 (経)	樋口 博美 (人)
運営委員	原田 博夫 (経)	研究会 ○佐藤康一郎 (営)
	木幡 文徳 (法)	兵頭 淳史 (経)
	池本 正純 (営)	枅田大知彦 (経)
	川村 晃正 (商)	飯沼 健子 (経)

	嶋根 克己（人）		小池 隆生（経）
		編集	○福島 義和（文）
			内藤 光博（法）
会計監査	永江 雅和（経）		前田 和實（商）
			新田 滋（経）
		文献資料	○野部 公一（経）
		ホームページ	○高萩栄一郎（商）
			吉田 雅明（経）

4. 事務局会議

2013年度

- (1) 4月23日（火） ①新所長所信表明、②2012年度事業報告、2012年度春季実態調査（四国）報告、③2012年度会計報告、④2013年度事業方針、研究会担当者会議の設置、2013年度夏季実態調査（ハノイ）の方針、専大・檀国大学合同研究会案（10月）、グループ研究助成申込状況、文献担当報告（山田盛太郎文庫整備、図書館との重複資料整理）、社研規則改訂版作成の経緯・進捗状況。
- (2) 5月28日（火） ①2013度事業方針（研究会担当・研究会担当者会議による研究会企画・開催について、夏季実態調査（ハノイ）のプログラム案について、社研規則改訂版作成（校閲料、翻訳料、通訳料等）について、月報企画・進捗状況について）、②2013度予算作成方針、③2012度会計内部監査。
- (3) 6月4日（火） （運営委員会との合同会議） ①新所長あいさつ、2013年度社研体制、②2012年度事業報告、③2012年度会計報告、④2012年度会計監査報告、⑤2013年度事業計画案、⑥2013年度予算要求案、⑦その他（社研内規等の改正、研究助成金の受け渡しについて）。
- (4) 7月16日（火） ①2012年度会計監査実施報告、②2013夏季実態調査（ベトナム）準備進捗状況報告、③定例研究会申し込み・開催報告、④2013春季実態調査企画の始動について、⑤第6回檀国大学合同研究会の準備状況報告、⑥月報編集進捗状況報告（600号記念号／2012年度春季実態調査合併号）／年報応募状況報告、⑦7月末の頒布会開催企画／三研究所相談で書庫の整理、山田盛太郎文庫の整理・修理作業計画、⑧JETRO法人会員希望、⑨社研無線LAN構築。
- (5) 10月1日（火） ①2013夏季実態調査（ベトナム）無事終了の報告・お礼（所長）、②2013年度予算執行状況報告／夏季実態調査（ベトナム）会計報告、③研究会実施・企画報告（2013夏季実態調査／第6回檀国大学合同研究会／定例研究会・シンポジウム／2013春季実態調査）、④編集担当報告（ベトナム特集企画：12月以降号で合併号、VASSより月報への投稿原稿予定、年報の編集進捗状況報告）、⑤文献担当報告（中国統計年鑑の購入／山田盛太郎文庫の整理・修復作業の進捗状況報告）、⑥HP担当報告（新型スキャナ購入検討→了承）。

- (6) 11月5日 (火) ①第6回檀国大学合同研究会報告、②2014年度事業計画書・予算要求書案の検討、③VASS企画投稿原稿の集約状況報告／年報・月報合併号の原稿集約状況報告、④叢書の出版契約のあり方についての問題提起、⑤年間・統計(洋書)の保存・廃棄・頒布について、⑥2013春季実態調査の日程確認・案内スケジュールの確認、⑦ページスキャナ購入報告・使用方法インストラクション、⑧内規改定の紹介(非常勤講師の講演料と原稿料について)。
- (7) 11月19日 (火) ①2014年度事業計画書・予算要求書(案)について、②対VASS対応について：月報への投稿原稿(英語)／書籍の寄贈／東北アジア研究所ミン所長一行の来日について(研究会／学長挨拶)、③研究会担当者会議から、④編集担当から、⑤文献担当から、⑥その他：規約等の改訂について／第102回総会の準備状況について。
- (8) 11月26日 (火) (運営委員会との合同会議)
①VASS東北アジア研究所所長の専大・社研訪問・研究会開催について、②新所員の承認について、③今年度規約等の改正について、④2013年度事業報告書(案)・予算執行状況について／⑤2014年度事業計画書・予算要求書(案)、⑥ベトナム社会科学院関係(月報投稿原稿(英文)について、原稿料・校閲料について、VASS出版企画への社研サイドの投稿原稿の進捗状況について)、⑦編集担当より、編集権を今少し積極的に作動させていくことについての問題提起がなされた。

2014年度

- (1) 4月22日 (火) ①今年度社研体制、②昨年度2013年度事業報告、③2013年度会計報告、④2014年度事業方針：社研規則改訂版作成・発行、社研各種書類(会計・出張等)の体裁の検討について、夏季実態調査(東北地方)、春季実態調査(ベトナム南部)、グループ研究助成(特別+A+B：新規or継続)募集、文献整理(山田盛太郎文庫、図書館との重複資料)、消費税増税分の社研予算実質減額分の吸収について、⑤所報(月報の入稿・企画状況)。
- (2) 5月20日 (火) ①2014年度社研体制の確認(所員の異動等の把握)、②2013年度会計報告(5/9内部監査報告)、③社研規則等の改訂版回覧、④夏季実態調査(三陸鉄道被災地ツアーの利用)の企画進捗状況、グループ研究Aの年度内に研究中間報告を定例研究会枠にて実施のこと、また、3年継続枠のグループ研究A、特別研究助成については、前年度成果報告書の提出の際に、翌年度計画書を添付すること(現況は翌年度に入ってからでの作成・提出)が提案され、了承された。新年度4月1日から、実質的に予算消化を始めるので、前年度のうちに新年度分の研究計画書を提出しておくという趣旨、⑤文献(図書館との重複資料／山田盛太郎文庫の整備について)。
- (3) 5月27日 (火) (運営委員会との合同会議)

- ①所長あいさつ、2014年度社研体制、②2013年度事業報告、③2013年度会計報告、④2013年度会計監査報告、⑤2014年度事業計画案（特別研究助成、グループ研究A・Bの事前審査報告書等の回覧・了承）、⑥2014年度予算要求案、⑦その他（研究中間報告を定例研究会枠にて実施することについて、了承、VASS投稿原稿出版企画の進捗状況の報告、『叢書第17巻：宮寄代表』の編集計画、報告）。
- (4) 7月15日（火） ①2013年度会計監査実施報告、②各研究助成の実行報告書のテンプレート
の大幅修正についての説明、③2014夏季実態調査（東北地方）準備進捗状況報告、④定例研究会申し込み・開催報告、⑤月報編集進捗状況報告、⑥7
月末の頒布会開催企画。
- (5) 9月30日（火） ①2014年度予算執行状況報告／夏季実態調査（東北地方）会計報告、②研
究会企画報告（定例／第7回檀国大学合同研究会／2014春季実態調査）、③
編集担当報告、④文献担当報告（中国統計年鑑の購入／購入停止図書アンケ
ートに基づく対処は購入契約期間満了となる再来年に実施）。
- (6) 10月28日（火） ①2015年度事業計画書・予算要求書案、②研究会企画：檀国大学との合同研
究会のプログラム等について／VASS一行の訪日スケジュール及び定例研究
会開催予定について／春季実態調査（南ベトナム）の企画進捗状況について、
③月報編集状況（12-1 合併号の原稿督促状の発送について）／年報の申し込
み・入稿・キャンセル状況について、④文献整理：担当アルバイトの退職に
伴う引継事項の整理について／それに伴う文献整理のデジタル化企画の進捗
状況について（HP担当チーフの報告）。
- (7) 11月18日（火） ①2015年度事業計画書・予算要求案について（檀国大学との合同研究会の報
告）、②VASS東北アジア研究所との国際交流協定の更新手続き及び一行訪
日中の定例研究会の設定について、③月報・年報の編集状況について、④文
献整理のデジタル化企画進捗状況について、⑤所長改選について、改選され
た場合の来年度半年の所長代理について（所長の中期海外出張予定）。
- (8) 12月2日（火） （運営委員会との合同会議）
①2014年度事業報告書・予算執行状況について、②2015年度事業計画書・予
算要求書（案）、特に、消費税アップ分（70万円弱）が社研運営・研究活動
に支障をきたしている点を学長宛「願い」を作成・提出して訴えていること
が報告された。③ベトナム社会科学院（VASS）東北アジア研究所関係につ
いて（国際交流組織間協定更新・調印式、来日スケジュール・定例研究会開
催について、紀要投稿協力について、図書の送付について）、④研究会担当
より（2014年度春季実態調査・ベトナム中南部案）、⑤文献担当+HP担当よ
り（文献整理の体制、デジタル化企画進捗状況について）、⑥その他：所長
より、今年度の「社研事故点検・評価報告書」を作成して提出について、ま
た、総会時に所長改選が行われることが報告された。

5. 運営委員会

2013年度

- (1) 6月4日（火）（事務局会議との合同会議）
①新所長あいさつ、2013年度社研体制、②2012年度事業報告、③2012年度会計報告、④2012年度会計監査報告、⑤2013年度事業計画案、⑥2013年度予算要求案、⑦その他（社研内規等の改正、研究助成金の受け渡しについて）。
- (2) 11月26日（火）（事務局会議との合同会議）
①VASS東北アジア研究所所長の専大・社研訪問・研究会開催について、②新所員の承認について、③今年度規約等の改正について、④2013年度事業報告書（案）・予算執行状況について、⑤2014年度事業計画書・予算要求書（案）、⑥ベトナム社会科学院関係（月報投稿原稿（英文）について、原稿料・校閲料について、VASS出版企画への社研サイドの投稿原稿の進捗状況について）、⑦編集担当より、編集権を今少し積極的に作動させていくことについての問題提起がなされた。

2014年度

- (1) 5月27日（火）（事務局会議との合同会議）
①所長あいさつ、2014年度社研体制、②2013年度事業報告、③2013年度会計報告、④2013年度会計監査報告、⑤2014年度事業計画案（特別研究助成、グループ研究A・Bの事前審査報告書等の回覧・了承）、⑥2014年度予算要求案、⑦その他（研究中間報告を定例研究会枠にて実施することについて、了承、VASS投稿原稿出版企画の進捗状況の報告、『叢書第17巻：宮寄代表』の編集計画、報告）。
- (2) 12月2日（火）（事務局会議との合同会議）
①2014年度事業報告書・予算執行状況について、②2015年度事業計画書・予算要求書（案）、特に、消費税アップ分（70万円弱）が社研運営・研究活動に支障をきたしている点を学長宛「願い」を作成・提出して訴えていることが報告された。③ベトナム社会科学院（VASS）東北アジア研究所関係について（国際交流組織間協定更新・調印式、来日スケジュール・定例研究会開催について、紀要投稿協力について、図書の送付について）、④研究会担当より（2014年度春季実態調査・ベトナム中南部案）、⑤文献担当+HP担当より（文献整理の体制、デジタル化企画進捗状況について）、⑥その他：所長より、今年度の「社研事故点検・評価報告書」を作成して提出について、また、総会時に所長改選が行われることが報告された。

2. 研究調査活動

1. 定例研究会

- (1) 2014年4月26日(土) 14:00～17:00 場所 専修大学神田校舎13A会議室
テーマ:「日中・日米関係から見た日本外交」
報告者: 田岡 俊次氏 (ジャーナリスト)
司 会: 古川 純参与
共 催: NPO現代の理論・社会フォーラム
参加者: 20名
- (2) 2014年5月20日(火) 15:00～16:30 場所 専修大学生田校舎10306教室
テーマ:「文化くらし面担当者が見た「福島」」
報告者: 山田 佳奈氏 (朝日新聞東京本社文化くらし報道部記者)
参加者: 18名
- (3) 2014年6月3日(火) 15:00～17:00 場所 専修大学生田校舎社会科学研究所会議室
テーマ:「ベトナムにおける日本のマンガ理解の現状; 日越の比較から」
報告者: ハ・ティ・ラン・フィ氏 (ベトナム社会科学院東北アジア研究所)
参加者: 11名
- (4) 2014年7月1日(火) 15:00～17:00 場所 専修大学生田校舎8号館832会議室
テーマ:「起業とコミュニティーインドのアパレル集積地の事例ー」
報告者: 内川 秀二所員 (本学経済学部教授)
討論者: 飯沼 健子所員 (本学経済学部教授)
司 会: 野口 旭所員 (本学経済学部教授)
共 催: 社研グループ研究助成 A
「グローバル化時代の国際経済の諸問題」(代表: 野口 旭)
参加者: 15名
- (5) 2014年7月22日(火) 16:40～18:20 場所 専修大学生田校舎9号館973会議室
テーマ: Chronicle of a Crisis Foretold: Causes and Consequences of the European Debt Crisis
報告者: Dr. Andy Storey
(USD School of Politics and International Relations、本学経済学部客員教授)
司 会: 堀江 洋文所員 (本学経済学部教授)
共 催: 社研グループ研究助成 A
「グローバル化時代の国際経済の諸問題」(代表: 野口 旭)
参加者: 10名
- (6) 2014年11月18日(火) 16:30～18:00 場所 専修大学生田校舎10号館10210教室
テーマ: アクショングループと地域主義 ―日本の中世末から近代初頭にかけての動向―
報告者: 松尾 容孝所員 (本学文学部環境地理学科教授)
共 催: 社研特別研究助成

「アクショングループと地域主義 ―日本とヨーロッパの比較考察―」

(代表 松尾 容孝)

参加者：8名

(7) 2014年11月29日(土) 14:00～17:00 場所 専修大学神田校舎1号館8階8C会議室

合評会：梅田皓士著

『現代韓国政治分析―「地域主義・政党システム」を探る』(志學社、2014年)

報告者：梅田 皓士氏(拓殖大学大学院国際協力学研究科後期博士課程)

討論者：李 羅炅氏(本学大学院法学研究科後期博士課程)

司 会：藤本 一美参与

共 催：日本臨床政治学会

参加者：12名

(8) 2014年12月16日(火) 16:40～18:00 場所 専修大学生田校舎10205教室

テーマ：日本のカメラ産業の競争力・ブランド力分析

―中国、日本の工場(Canon大分工場)視察報告を含む―

報告者：望月 宏所員

共 催：社研グループ研究助成A

「日本のカメラ産業の競争力・ブランド力分析」(代表 望月 宏) 参加者5名

2. シンポジウム

(1) 2014年7月12日(土) 14:00～17:00 場所 専修大学神田校舎1号館13階13A会議室

テーマ：「日本の女性政治家と政治指導」

報告者：清水 隆雄氏(元国会図書館・専門調査員) 「吉村美栄子(山形県知事)」

末次 俊之所員(本学法学部助教) 「太田房江(大阪府知事)」

根本 俊雄氏(本学法学部非常勤講師) 「潮谷義子(熊本県知事)」

討論者：濱賀 祐子(客員研究員・本学法学部非常勤講師)

司 会：藤本 一美参与

共 催：日本臨床政治学会

参加者：16名

(2) 2014年10月19日(日) 13:00～17:00 場所 専修大学神田校舎5号館551教室

テーマ：「日本における人種差別を考えるシンポジウム」

～ヘイトスピーチをきっかけに～

報告者：パトリック・ソーンベリー氏(英キール大学名誉教授、前人種差別撤廃委員会委員)

パネリスト：西土 彰一郎氏(成城大学教授)

師岡 康子氏(大阪経済法科大学客員研究員)

藤本 美枝氏(弁護士)

共 催：自由人権協会

参加者：100名

3. 特別研究会

- (1) 2014年度夏季実態調査（東北沿岸被災地視察：2014年8月26日～8月28日）

8月26日（火）：一ノ関駅集合、バスで、気仙沼、陸前高田を視察、釜石市泊。

8月27日（水）：釜石、大槌、山田町視察、三陸鉄道乗車、宮古市泊。

8月28日（木）：田老視察、盛岡駅にて解散。

- (2) 第7回専修大学・檀国大学合同研究会

2014年11月15日（土） 場所 専修大学神田キャンパス国際会議室

テーマ：革新を起こすアジアの経済と経営

13：00 開会

挨拶：蔡イン錫（経営研究所所長・社研所員）

Sang-Hyuk, Lim（檀国大学）

1. 発表者：Prof. Kim Joo-Tae（檀国大学）

“A model for green management and the application to the case of POSCO”

コメンテーター：柴田弘捷参与

2. 発表者：橋田洋一郎 准教授（経営研究所）

「パッケージ・デザインにおけるグローバリゼーション」

コメンテーター：Prof. Yang jong-gon（檀国大学）

3. 発表者：Prof. Sohn Sung-Jin（檀国大学）

“Research Trend of Management Accounting Literatures and Future Directions: Analysis of Research Contents and Productivity from a Bibliometric Viewpoint “

コメンテーター：山崎 秀彦所員

4. 発表者：間嶋 崇准教授（経営研究所）

「経営倫理研究の最近の動向」

コメンテーター：Prof. Lim Sang-Hyuk（檀国大学）

17：00 閉会

挨拶 村上 俊介（社会科学研究所所長）

- (3) 2014年度春季実態調査（ベトナム中南部 2015年3月11日～3月18日予定）

4. 研究助成

☆グループ研究助成A（4名以上・年50万円3年間・定例所員総会にて研究経過の報告義務・年度内に研究中間報告を定例研究会枠にて実施・1名以上論文発表義務）

2012年度発足

◇「グローバル化時代の国際経済の諸問題」

（野口旭（責）・鈴木直次・浅見和彦・泉留維・大橋英夫・野部公一・大倉正典・飯沼健子・狐崎知己・稲田十一・堀江洋文・加藤浩平・永島剛・内川秀三・毛利健三の15名）

2013年度発足

◇「日本のカメラ産業の競争力・ブランド力分析」

(望月宏〈責〉・梶原勝美・溝田誠吾・笠原伸一郎、今井雅和、小林守の6名)

2014年度発足 なし

☆グループ研究助成 B (2名以上・年20万円1年間・定例所員総会にて研究経過報告義務)

2014年度発足

◇「自治体における SP コード (音声コード) の普及状況と課題についての予備的調査

—障害者差別解消法施行にともなう「合理的配慮」に関する検討に向けて—

(野口武悟〈責〉・植村八潮・深見沢史の3名)

◇「インドシナ半島の社会関係資本の実態調査研究」

(稲田十一〈責〉・飯沼健子の2名)

◇「金沢市の菓子製造業の競争優位についての研究」

(樋口博美〈責〉・佐藤康一郎の2名)

◇「災害復興・予防と地域社会の構造分析」

(大矢根淳〈責〉・佐藤慶一の2名)

◇「新たなフランス革命研究の地平を「ベル文」に求めて」

(近江吉明〈責〉・永島剛の2名)

◇「戦後日本における社会運動ユニオニズムの源流に関する研究」

(兵頭淳史〈責〉・高橋祐吉の2名)

☆特別研究助成 (5名以上・年100万円3年間・定例所員総会にて研究経過報告義務、年度内に
研究中間報告を定例研究会枠にて実施・助成終了後2年以内に『社会科学研究
叢書』刊行義務)

2012年度発足

◇「ベトナム社会主義共和国の経済及び産業、社会、文化の変容と諸課題」

(佐藤康一郎〈責〉・(宮寄晃臣)・大矢根淳・嶋根克己・村上俊介・嶺井正也の6 (5) 名)

2013年度発足

◇「方法としてのドキュメンタリーの生成とアジアにおける発展」

(土屋昌明〈責〉・鈴木健郎・(下澤和義)・根岸徹郎・川上隆志・上原正博・三田村圭子・森
瑞枝の8 (7) 名)

2014年度発足

◇「アクショングループと地域主義—日本とヨーロッパの比較考察—」

(松尾容孝〈責〉・砂山充子・堀江洋文・広田康生・山本充の5名)

3. 所報の刊行

1. 『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

(1) 4月20日 (第610号)

「愛媛県東予地方4工業都市の社会・都市構造 (1)

- 今治市、新居浜市、西条市、四国中央市の比較—」……………柴田 弘捷 (参与)
- (2) 6月20日 (第611 + 612合併号)
- 1) 「社会科学研究所2013年度春季実態調査行程」……………大矢根 淳 (所員)
 - 2) 「専修大学社会科学研究所2013年度春期合宿研究会 (長野県飯田市) を終えて」
……………村上 俊介 (所員)
 - 3) 「つながりの不思議さ：飯田市の歴史と社会関係資本」……………原田 博夫 (所員)
 - 4) 「飯伊地域の労働市場事情」……………柴田 弘捷 (参与)
 - 5) 「飯田市経済の現状と地域経済活性化政策」……………宮寄 晃臣 (所員)
 - 6) 「飯田市における再生可能エネルギー開発とその役割」……………齋藤 雄志 (参与)
 - 7) 「東南アジア諸国における太陽光発電と小規模水力発電の導入と活用について」
……………飯田 謙一 (参与)
 - 8) 「ケーススタディ：地場伝統産業水引のブランド、長野県飯田市 (株)田中宗吉商店の
「御国」」……………梶原 勝美 (所員)
 - 9) 「飯田水引と提言」……………前田 和實 (所員)
 - 10) 「飯田市の公民館システム」……………鐘ヶ江晴彦 (所員)
 - 11) 「飯田・下伊那における地域規模と地域振興」……………飯沼 健子 (所員)
 - 12) 「飯田市の都市政策の課題ーリング並木が原点」……………福島 義和 (所員)
 - 13) 「市田柿の生産、販売活性化の一事例
「かぶちゃん農園」視察報告」……………望月 宏 (所員)
 - 14) 「満蒙開拓再考」……………今井 雅和 (所員)
- (3) 7月20日 (第613号)
- 1) 「愛媛県東予地域4工業都市の社会・都市構造 (2)
—今治市、新居浜市、西条市、四国中央市の比較—」……………柴田 弘捷 (参与)
 - 2) 「Funeral Ceremony as an Embedded Social Capital」……………嶋根 克己 (所員)
- (4) 8月20日 (第614号)
- 1) 「インド・アイルランド関係と大英帝国」……………堀江 洋文 (所員)
 - 2) 「中国福建省における社会関係資本の実証的分析」……………丸茂 雄一 (客員)
- (5) 9月20日 (第615号)
- 「IT／グローバル資本主義下の長野県経済再考
—ITバブル崩壊後の長野県経済— (付表)」……………宮寄 晃臣 (所員)
- (6) 10月20日 (第616号)
- 「消費者行動研究における関与研究について」……………金 成洙 (所員)
- (7) 11月20日 (第617号)
- 「鈴木寛 元文部科学副大臣インタビュー：
教育に関するガバナンスの基本方向、そして文部科学省とのかこと」……………広瀬 裕子 (所員)
- 以下、予定
- (8) 1月20日 (第618・619合併号) 2014年度夏季実態調査 (東北地方) 特集

(9) 2月20日 (第620号)

(10) 3月20日 (第621号)

2. 『社会科学年報』第48号の刊行 (2014年3月10日)

論文

- 「『資本論』第2部「第1草稿」の対称性」……………内田 弘 (参与)
- 「ミャンマーのブランド「ミャンマー」とラオスのブランド「ビアラオ」
＜補遺＞」……………梶原 勝美 (所員)
- 「科学方法論からみたコホート分析の新解釈 ―危機からの脱出のパラダイム―」
……………川口 雅正 (九州産業大学経済学部教授)・森 宏 (参与)
- 「食品廃棄物削減と食品リサイクルの現状と課題」……………佐藤康一郎 (所員)
- 「片倉越後製糸株式会社の株主分析」……………高梨 健司 (客員研究員)
- 「よみうりランドと川崎市戦災復興事業 ―戦後レジャー会社と地方競馬―」
……………中田久美子 (本学経済学研究科修士課程修了)・永江 雅和 (所員)
- 「復元論」と「分化発生論」について ―宇野弘蔵と山口重克の方法論をめぐって―」
……………新田 滋 (所員)
- 「学校の性教育に対する近年日本における批判動向
―「性教育バッシング」に対する政府対応―」……………広瀬 裕子 (所員)

研究ノート

- 「総力戦体制から国民的総動員システムへ」……………桑野 弘隆 (客員研究員)
- 所報……………大矢根 淳 (所員)
- 編集後記……………福島 義和 (所員)

3. 「社研叢書」第17巻刊行について

2012年度終了 (代表: 宮寄所員): 『ワークフェアの日本的展開
―雇用の不安定化と就労・自立支援の課題―』
(宮寄晃臣 (責)・町田俊彦・高橋祐吉・福島利夫・黒田彰三・内山哲朗・永島剛・兵頭淳史・
鈴木奈穂美・小池隆生・唐鎌直義・湯進の12名)
が、本年度刊行予定である。

4. その他の活動

1. 文献資料の収集

- (1) 社会科学分野にかかわるリファレンス資料に相当するもの (辞書、統計、白書、年鑑等) の収集に重点を置くという方針に基づいて、文献資料を収集した。
- (2) 年度当初から文献購入希望を募り、予算枠を考慮しつつ、随時購入した。
- (3) 社研プロジェクト「中国社会研究」の一環としておこなってきた中国経済・社会に関する文献収集に関しては、東アジア経済社会を対象を広げ実施した。

2. 文献資料の整理、配架

- (1) 文献資料の検索は「図書カード」によるものとして、収集した文献の整理を行なった。また、電子化にむけた作業を開始した（システム構築についての検討開始）。
- (2) CD-ROM版の文献資料はロッカーに別途保管した。
- (3) 図書館と重複して購入している和雑誌に関しては、書庫が手狭になったため（直近数年分を除き）廃棄処分とした。なお、廃棄にあたっては、希望者に対象雑誌を頒布する期間を設けた。2014年度は、英文資料についても検討を行い、重複所蔵している年鑑・統計集について、2014年度より和雑誌と同等の処理をすることとした。廃棄処分をする資料で図書館に欠号の資料については寄贈を行う。
- (4) 山田盛太郎文庫整備に関しては、中根康裕客員研究員への意見聴取をふまえて、東亜研究所時代の文献を中心に保全を図るという基本方針を決定した。
- (5) 書庫のスペースを確保するために、判型毎に並び替える作業を行った。
- (6) その他
「文献ニュース」を社会科学研究所のホームページに掲げ、2013年度末までに収集した主な文献を中心に新着情報を提供した。

3. ホームページ（パーソナル・コンピュータ）

パソコンを社会科学研究所と当研究所の研究事業を外部により広く公開するための道具として活用する。

- (1) ホームページの充実
ホームページのさらなる充実をすすめた。論文を読みやすくするために、論文単位のファイル化、抄録の作成、問い合わせ先の追加などを検討する。
- (2) 電子メールの活用
電子メールを活用して、通信業務を効率化した。2007年度より開始した、所員に対する案内等の原則電子メール化を継続している。
総会案内、出欠確認、委任状集約等に電子メール（添付ファイル）を利用することを試行しているところである。
- (3) コンピュータシステムの充実
昨年度、社研内の無線LANを構築し、また、ページ・スキャナを購入・インストールし利用に供している。
- (4) 専修大学学術機関リポジトリへの登録
社研のホームページに掲載されている論文（月報・年報）を図書館が運用する「専修大学学術機関レポジトリ」に登録している（登録するために、月報・年報の投稿規定に、「掲載された論文は、原則として、社会科学研究所ホームページおよび専修大学学術機関リポジトリに登録し、全文公開する」を追加した）。
以上の論文以外の論文の専修大学学術機関リポジトリへの対応は別途、検討する。